

平成 26 年 岡崎むかし館 夏休み子ども体験講座
観察しよう！くらしの道具

道具の体験・観察ワークシート①

蚊帳(かや)



■どんな道具？

窓を開けて寝る夏の夜、布団をおおうように部屋に吊り下げて、蚊を防ぐ道具です。蚊帳は奈良時代には登場しますが、麻や木綿は貴重品のため、身分の高い人しか使えませんでした。広く普及するのは江戸時代以降です。昭和 30 年代(1960年)頃までは夏の生活必需品で、嫁入り道具で持参されました。現在も、アフリカなど海外で活用されています。

<使い方>

- ① ふとんをしき、その上に蚊帳を広げて、つるします。四すみと真ん中に2カ所、計6カ所につり輪があり、ひもをかけて「なげし」(日本建築で柱と柱の間にある横長の板で、上部にすきまがある)にひっかけます。
- ② 蚊帳の中に入るときは、蚊がいっしょに入らないように気をつけます。うちわであおいだり、蚊帳の下の方をバサバサと振って、周りの蚊を追いはらってから、すきまを小さく蚊帳の下を開けてすばやく中へ入ります。

体験★蚊帳の中に入ってみよう！



おじいちゃんが子どもの頃、かみなりが鳴ったら、おへそをかくして、蚊帳の中へ逃げただって。

*おじいちゃんやおばあちゃんに蚊帳の思い出を聞いてみよう！

*<観察ポイント>に自分の感じたこと、考えたことを書いてみよう！

<観察ポイント>

◎蚊帳の中はどんな感じがする？

[]

◎素材の特徴は？

[]

◎今、蚊を防ぐ時に使っている道具には何がある？

[]

◎どうして今は、使われなくなったのかな？

[]